

記者発表資料

平成20年5月12日（月）

環境部 温暖化対策課

温暖化対策企画調整担当 安藤、山井

内線 3037 外線 048-830-3037

a3030-01@pref.saitama.lg.jp

## 平成17年度の埼玉県における温室効果ガス排出量を公表します

平成17年度の埼玉県における温室効果ガス排出量は4,311万3千トンでした。排出量はここ数年横ばいの傾向にあります。県では今後、地球温暖化対策地域推進計画の見直しを行い、地球温暖化対策の強化を図っていきます。

### 1 温室効果ガス排出量の概要について

- 「埼玉県地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、「温室効果ガス排出量」〔二酸化炭素換算〕の平成17（2005）年度の算定を行いました。
- 算定の結果、温室効果ガス排出量は4,311万3千トンとほぼ前年度なみでした。排出量はここ数年横ばいの傾向にあります。
- これは、「埼玉県地球温暖化対策地域推進計画」の基準年（平成2年度）と比べると5.6%増加しています。
- この結果、「埼玉県地球温暖化対策地域推進計画」に掲げる2010（平成22）年度における温室効果ガス排出量の目標（1990年度の排出量から6%削減）を達成するには、11.6%の削減が必要です。
- 今年度、「埼玉県地球温暖化地域推進計画」の見直しを行い、新たな目標を定め、地球温暖化対策の強化を図っていきます。
- 計画の見直し等にあたっては、有識者等による専門委員会を新たに立ち上げて検討します。

※温室効果ガスの排出量の一覧は、別紙を参照してください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A09/BE00/ondanka/CO2/h17haishutsu.pdf>

### 2 部門別の二酸化炭素排出量の概要について

- 温室効果ガス排出量の97.0%を占める二酸化炭素の排出量を部門別に見る

と、排出量が前年度に比べ減少した部門は、産業部門、運輸部門です。

- 一方、増加した部門は、民生（家庭、業務）部門、廃棄物部門及び工業プロセス部門です。

〔各部門の2005年度二酸化炭素排出量と背景〕

◇産業部門【工場等】1,357万3千トン（全体排出量の構成比 32.4%）

前年度比 1万4千トン減（△0.1%）

基準年比（1990年度）比 185万3千トン減（△12.0%）

背景 軽油、重油、石炭等から都市ガス、LPGへの転換 等

◇民生（家庭）部門 844万9千トン（構成比 20.2%）

前年度比 31万4千トン増（+3.9%）

基準年比 242万2千トン増（+40%）

背景 ルームエアコン、2台目以降のテレビの普及率の増加等、一世帯当たりの電力消費量、都市ガス消費量の増加 等

◇民生（業務）部門【商業・事業所等】559万トン（構成比 13.4%）

前年度比 9万トン増（+1.6%）

基準年比 168万トン増（+43%）

背景 一事業所あたりの電力消費量の増加 等

◇運輸部門【自動車・鉄道等】1,044万2千トン（構成比 25.0%）

前年度比 14万3千トン減（△1.4%）

背景 自動車の燃費の向上 等

基準年比 180万3千トン増（+21%）

背景 自動車保有台数の増加 等

◇廃棄物部門【廃棄物の焼却】139万4千トン（構成比 3.3%）

前年度比 1万5千トン増（+1.1%）

基準年比 8万8千トン増（+6.7%）

背景 一般廃棄物の排出量の増加 等

◇工業プロセス部門【製造時の化学反応】238万8千トン（構成比 5.7%）

前年度比 7万3千トン増（+3.2%）

背景 短期的なセメントの生産量の増加

基準年比 143万トン減（△37%）

背景 長期的なセメントの生産量の減少

2005年（平成17年度）  
埼玉県における温室効果ガスの排出量

(単位: 万t-CO<sub>2</sub>)

	総排出量				対基準年比		対前年度比	
	1990年 (平成2年度) 【基準年】	2004年 (平成16年)	2005年 (平成17年)		増加量 (万t-CO <sub>2</sub> )	伸び率 (%)	増加量 (万t-CO <sub>2</sub> )	伸び率 (%)
			排出量	構成比				
<b>二酸化炭素</b>	3,912.5	4,150.0	4,183.6	97.0%	271.1	6.9%	33.6	0.8%
産業部門	1,542.6	1,358.7	1,357.3	32.4%	-185.3	-12%	-1.4	-0.1%
民生(家庭)部門	602.7	813.5	844.9	20.2%	242.2	40%	31.4	3.9%
民生(業務)部門	391.0	550.0	559.0	13.4%	168.0	43%	9.0	1.6%
運輸部門	863.9	1,058.5	1,044.2	25.0%	180.3	21%	-14.3	-1.4%
廃棄物部門	130.6	137.9	139.4	3.3%	8.8	6.7%	1.5	1.1%
工業プロセス部門	381.8	231.5	238.8	5.7%	-143	-37%	7.3	3.2%
<b>その他温室効果ガス</b>	171.5	137.7	127.7	3.0%	-43.8	-26%	-10.0	-7.3%
メタン	44.3	39.2	38.5	30.1%	-5.8	-13%	-0.7	-1.8%
一酸化二窒素	47.4	53.4	53.0	41.5%	5.6	12%	-0.4	-0.7%
ハイドロフルオロカーボン	6.0	15.9	13.1	10.3%	7.1	118%	-2.8	-18%
パーフルオロカーボン	19.1	16.9	13.6	10.6%	-5.5	-29%	-3.3	-20%
六フッ化硫黄	54.7	12.3	9.5	7.4%	-45.2	-83%	-2.8	-23%
<b>合計</b>	<b>4,084.0</b>	<b>4,287.7</b>	<b>4,311.3</b>	<b>100.0%</b>	<b>227.3</b>	<b>5.6</b>	<b>23.6</b>	<b>0.6</b>

埼玉県における温室効果ガス排出量の推移

